

大谷石・食で観光振興を

宇都宮共和大 市内でシンポ開催

宇都宮共和大学都市経済研究センターは5日、宇都宮市の観光振興を考えるシンポジウムを同市内で開いた。建築用石材の大谷石や食を生かして人を呼び寄せる仕掛け作

りの必要性を、研究者やレストランシェフらが講演や議論で訴えた。

人が集まる空間づくりを扱う「集客空間論」に詳しい東京都市大学の川口和英教授は講演で、信

仰の対象や交通の拠点機能、自然、歴史のある空間が人を引きつけると指摘。フランス修業の経験があるオーナーシェフの音羽和紀氏は食と農、芸術などが充実した地域づ

くりが重要と話した。

パネル討論では大谷で体験型ツアーを展開するファーマーズ・フォレスト(宇都宮市)の松本謙社長が「また来たいとい

う仕組みをどう作るかが重要」と強調。都市プランナーの富岡裕一郎氏は「大谷全体をプロデュースする役割を誰が担うかが重要」だと主張した。